第2回中央区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時：平成19年9月22日（土） 午後2時から午後3時30分まで
場 所：中央区役所4階会議室
出席委員：30名中24名出席（欠席委員：6名）

<次 第>

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題
 - (1) ビデオによる社協の活動紹介について
「みんなで福祉のまちづくり（千葉市社会福祉協議会地区部会活動）」
 - (2) 平成18年度地域福祉パイロット事業の関係委員より報告
 - (3) その他
今後のスケジュールについて
平成19年度地域福祉パイロット事業について
- 4 閉会

議題

- (1) ビデオによる社協の活動紹介について
「みんなで福祉のまちづくり（千葉市社会福祉協議会地区部会活動）」
事務局より、ビデオによる社協の活動紹介について、説明。

<質疑応答>

委 員：（特に異議なし。）

- (2) 18年度地域福祉パイロット事業の関係委員より報告

「福祉マップの作成事業」・・・ちば中央地区部会

地域における福祉活動を円滑に図るために的確に情報を示すことのできる地域の福祉マップを作成し、過程において、それに参加する地域の関係団体や組織・機関との親密な作業体制を作り上げ、協力関係を築きあげることにより、地域福祉力の向上を図ることを目的に作成された。

マップの内容は、22ページ1町内自治会で1ページ、その他に暮らしの情報、マップ案内&総覧のページを加えた。

個人情報については、できあがったマップをどう利用していくか、慎重におこなった。

災害時において、一人でも、見逃さないということをしていきたい。どこそこに何歳以上で、どういう状態の人がいるのかということをかきこまなければいけなかった点。それは、印刷ができないためできあがったものに、全部それぞれの町内自治会等の役員やその仕事をしている方等に書き込んでもらい、それを利用してくださいということで用意をした。

なぜ、調べにきているんだという事に対しての、理解してもらおうのが大変だった。

福祉ネットワーク委員会の人たちが中心になって動いていただいた。予算の関係もあって100部の作成であった。

< 質疑応答 >

委員： 私の地区も、マップの作成をしたが、いろいろな作り方があったことがわかりました。全戸配布4,000部を作成したため、予算が足りなくなり、結果的には、カラー4ページ、モノクロ4ページになってしまった。

掲載した内容は、地域内公共施設、地域内福祉施設、地域内災害時避難場所、地域内介護、保育等施設、地区部会の紹介、その他住民が求める情報を書き込んだ。商店街の広告も入れたかった。

委員： 私の地区も課題になっており、ちば中央地区部会は、こういう地域性があるって、だから住民にこういうことを知らせた方がいい。だからこういう内容にした等の特色を教えて欲しい。

委員： 中央区役所を中心とした地域であり、病院等は、わかっているが、さらに専門的なことを知りたい場合はたくさんある。

例えば、食事を提供するという話があった。ただ、それはできない。関係のある業者が多すぎるためである。その人たちを無視して、勝手にやると、あとあと問題がでる。医者についても、同じことがいえる。1番、大事なことは、1人1人の住民が、どのようにして、たくさんのものを、自分で選んでもらうことを第1条件として考えた。従って地図上では、細かいことは何もなく、細かいものは、地域の役員がもっている。個人情報なので、取扱等には、十分に注意を払っている。

「子育て支援・よいこの広場事業」・・・西千葉地区部会

中央区地域福祉計画の基本方針2の交流の場と仲間づくりにおいて、地域の乳児を持つ親と子(0~3歳)を対象に育児の情報交換や友達づくりの手助けをするための場を提供し、親子の健康状態や精神状態を見守り、虐待等の防止や育児経験を持つ地域の高齢者等の交流を目的に、14組29名の親子が参加し、雑談しながら、気軽に育児等の悩み等を話しあいや、高齢者の参加のもと、

講演会・実習等を実施し、世代間をとおして、子育てを地域全体で見守っていく体制づくりを行っていく。今年度も偶数月の第2水曜日に継続して事業を実施している。

「高齢者交通安全教室事業」・・・生浜地区部会

中央区地域福祉計画の基本方針7の人にやさしい環境づくりにおいて、高齢者自身が、交通安全・事故防止への意識を高め、道路歩行や横断・自転車利用等、交通規則を守り、日常生活の中で実践し、健康で安全な日常生活を送ることを目的に事業を実施した。

研修内容は、講話、講習、体験等を実施し、「シートベルトコンビンサー」（体験車）に2名ずつ乗り、シートベルトの効力を体験した。この地区における高齢者の交通事故が、激減したことは、大きな成果である。互いに交流を図り、引きこもり防止にも役だっている。

パイロット事業は、地域での支えあう力を養いながら、若い世代がどう育っていくのか。また、地域がどう動いていくのかが課題である。

今回のパイロット事業を通して、若い世代の育成という意味においては、パイロット事業の成果である。

< 質疑・応答 >

委員： 借りた電気自動車に初めて乗った方が、踏切で事故にあったケースがあるが、これは、講習もなくすぐに乗れるものなので、今回、電気自動車の講習会もあったのでしょうか。

委員： 電気自動車の講習会は、企画はしませんでした。

委員： クリアファイルの作成、配布部数と価格を教えて欲しい。

委員： 500枚で、税込で29,400円です。

委員： 3事業とも、人員と資金の調達が課題で、地域のスポンサー等、共同団体や事業法人等も取り組む必要があるのではないかと感じた。

地区部会の組織の重要性を感じた。

交通安全教室では、操作と能力の問題とつくる側（業者）の事故対応に対する必要性とインフラの問題も、安全対策の必要性がある。

委員： 交通安全教室では、ビデオ等の貸出もやっているところも利用するとよいのではないかと。

(3) その他

今後のスケジュールについて

委員長： 次回の日程を早めに決めたいと思うが、事務局（案）はあるか。

事務局： 12月1日（土）で、調整しております。決定次第ご報告いたします。

平成19年度地域福祉パイロット事業について

事務局：事務局から地域福祉パイロットについて、以下のとおり説明した。

5月1日～5月31日までに募集した地域福祉パイロット事業は、6月29日に審査会が開かれ、千葉市全体で25事業、250万円、うち中央区で9事業、90万円の補助が決定された。

50万円の残額が生じ、市と協議した結果、今回は、地区部会とNPO法人が連携・協働した事業に限り、募集することとなった。

補助金額等につきましては、1事業につきまして、10万円を限度とし助成し、募集期間は10月12日（金）までである。

<質疑・応答>

委員：地域福祉計画の先進都市の状況を、勉強する機会をいただければと思います。

事務局：交通費の問題等もあるので、今後の課題ということにさせていただければと思います。

委員：今後も、推進協でパイロット事業の報告を順番に頂けるのでしょうか。

事務局：推進協は、今年度あと2回予定されていますので、時間があれば、発表していただきたい。時間に限りがございますので、ぜひというところは、優先的に取り組んでいきたい。

委員：パイロット事業の報告書は、いつまでに提出すればよいか。

事務局：事業が終了次第、提出していただければと思います。

閉会

副委員長が、会議終了を宣言し、第二回中央区地域福祉計画推進協議会を閉会した。